

中国語の副詞“真、实在、的确”が状況語になる 修飾構造の肯定式と否定式の対称と非対称

徐 国 玉

- § 0 はじめに
§ 1 肯定式はあるが否定式がない
§ 2 否定式はあるが肯定式がない
§ 3 肯定式と否定式が対称
§ 4 肯定式と否定式が意味上と形式上に対称もあり、
非対称もある
§ 5 終わりに

キーワード：肯定式・否定式・対称・非対称・
規則

§ 0 はじめに

0.1 中国語には言語単位 of 対称と非対称の現象が沢山あり、副詞“真、实在、的确”が状況語になる修飾構造における肯定式と否定式の対称と非対称の現象もその中の一つである。例えば、(引用された例文は主に北京大学言語学研究中心の言語資料データベースとインターネットから出ており、それぞれ文末に“[北]、[イン]”で示す。)

1. 肯定式はあるが否定式がない

- (1) 真可耻 (本当に恥ずかしい) / *真不可耻
(2) 实在伟大 (実に偉大だ) / *实在不伟大
(3) 的确够呛 (確かにたまらない、確かにやりきれない) / *的确不够呛

2. 否定式はあるが肯定式がない

- (4) *真像话 / 真不像话 (本当に話にならない)

- (5) *实在靠谱 / 实在不靠谱 (実に道に外れた)
(6) ? 的确正常 / 的确不正常 (確かに正常ではない)

3. 肯定式と否定式が対称

- (7) 真方便 (本当に便利だ) / 真不方便 (本当に便利ではない)
(8) 实在便宜 (実に安い) / 实在不便宜 (実に安くない)
(9) 的确容易 (確かに易しい) / 的确不容易 (確かに易しくない)

4. 肯定式と否定式が意味上と形式上において対称もあり、非対称もある

ある修飾構造はその肯定式と否定式が形式上と意味上において対称の一面があるだけでなく、非対称の一面もある。形式上と意味上において、対称しているのは、例えば、

- (10) 这道题可真简单, 一算就算出来了。 / “陶师傅也弄得头昏眼花, 问题真不简单呀!” [北]

(この問題は本当に簡単で、ちょっと計算するとすぐ答えが出た。 / 「陶さんも頭がぼうっとして目がかすんで、問題は本当に簡単ではないね。」)

[真简单 / 真不简单]

- (11) 想法实在太简单。[イン] / 幼教同事们生活实在不简单。[イン]

(考え方は実にとても簡単だ。 / 幼児教育の同僚たちの生活は実に簡単ではない。)

[实在简单／实在不简单]

(12) 虽是英文版界面，但的确简单。[イン]／……从这个问题看出来，我们的工作的确不简单。[北]

(英語版インターフェースだが、確かに簡単だ。／…この問題から、私たちの仕事は確かに簡単ではないことがわかる。)

[的确简单／的确不简单]

例10、11、12は、肯定式と否定式の中にある“簡単”が、構造が単純で、手懸りが少ないという意味で、形式上と意味上において、いずれも対称である。

“簡単”はまた平凡であるという意味もある。例えば、

(13) 他那个人真不简单，一年内就有两项大的发明。

(彼は実に大したもので、一年間に大きな発明が二つもあった。)

(14) ……你像一个艺术家，实在不简单！[北]

(…あなたは芸術家のように、実に大したもののだ。)

(15) ……不明底细的人都认为邓斌的确不简单……[北]

(…いきさつを知らない人はみな鄧斌さんは確かにたいしたものだ、と思っている…)

“簡単”の平凡であるという意味は否定に多く使われている。副詞“真、实在、的确”に修飾される時肯定式はない。だから、例13、14、15の中の肯定式を、例10、11、12の対称形式として見なすことはできない。

周知のように言語は有機的な調和のシステムであり、文法のいろいろな構造と表記は互いに制約しあったり、互いに依存しあったりしている。では、副詞“真、实在、的确”が修飾語となる修飾構造の対称と非対称の現象の裏にはどんな制約しあう規則があるのか、これが本論で

論議したい中心となる問題である。

0.2 辞書には一般的に副詞“真”の意味について“实在、的确”と、副詞“实在”の意味については“的确”と、副詞“的确”の意味については“完全に確実である、実に”と解釈している。辞書の解釈には議論の余地がある。実は、“真”の意味は“实在、的确”と同一視してはならない。“实在”の意味も“的确”と同一視してはならない。“真、实在、的确”三者の意味の違いは、まず文の中で勝手に置き換えられないということを通して証明することができる。

(16) 我刚刚酝酿起来的那点儿坚强，就被冲击得烟消云散，我脆弱得真想现在就扑到妈妈的怀里大哭一场。[北]

(私の絞り出したばかりのそのわずかな強靱な意志は、いっぺんに消え去るまでに打ち碎かれて、私は本当に今にも母の胸に飛び込んでひとしきり泣き喚きたいほどにもろく弱くなっていた。)

[*实在／*的确]

(17) 他……对记者说：“实在难以相信女儿已经离开了……”[北]

(彼は…記者に「娘がすでに亡くなったことは実に信じられない」と言った。)

[*真／*的确]

(18) 因为她们的实力摆在那儿，的确要比别的队更优秀。[北]

(彼女達の実力はそこに現れていて、確かに他のチームより更に優秀である。)

[*真／*实在]

例16の“真”は“实在”と“的确”に置き換えられない、例17の“实在”は“真”と“的确”に置き換えられない、例18の“的确”は“真”と“实在”に置き換えられない。

0.3 文法の機能方面では、副詞“真、实在、的确”は状況語になり、肯定か否定を強めるのに役立っている。どちらも肯定か否定を強める

のに役立っているが、強さの違いがある。比べてみよう、

(19) 这首歌曲真不错！（この歌は本当にいい。）

(20) 这首歌曲实在不错！（この歌は実にいい。）

(21) 这首歌曲的确不错！（この歌は確かにいい。）

“真、实在、的确”三者の強さは次の通りである。

真 < 实在 < 的确

0.4 言語の主観性の角度から見れば、副詞“真、实在”はいずれも客観的事物の“真实性”の方面に対する主観的肯定であり、感情色が濃厚で、時には誇張色も兼ね備える。“的确”は完全に確実の意味を表し、感情色はかなり薄く、客観的な肯定の傾向がある。

0.5 “真、实在、的确”はいずれも形容詞と副詞の二つの品詞がある。以下に触れた“真、实在、的确”はほぼ副詞の性質のもので、特に明記しない。

§ 1 肯定式はあるが否定式がない

この非対称の例は多く、以下でAとB二つの組に分けて論議を展開しようと思う。

A.(22) 真神速（本当に神速だ）／*真不神速

(23) 真崎岖（本当にでこぼこだ）／*真不崎岖

(24) 实在辽阔（実に広々としている）／*实在不辽阔

(25) 实在沉重（実に重い）／*实在不沉重

(26) 的确艰难（確かに苦難に満ちた）／*的确不艰难

(27) 的确艰辛（確かに辛苦だ）／*的确不艰辛

A組の例はいずれも肯定式はあるが、否定式がない。これは“真、实在、的确”に修飾された形容詞は意味上、ある共通の特徴を持っていることを示している。ではこの共通の特徴は何か。この共通の特徴は“真、实在、的确”に修飾された形容詞の語義レベルが高いことである。ここで語った語義レベルというのは言葉の意味の特徴に基づき、その程度の高さによって計量化を行って得た概念である。⁽¹⁾

語義レベルが高い言葉は事物に対して十分に肯定して生まれたもので、肯定性が強い特徴を持っている。“不”の否定を受けることができるが、肯定や否定を強める役割の“真、实在、的确”と一緒に用いることを避ける。しかし、語義レベルが普通の言葉はこれと違って、“不”の否定を受けると同時に肯定か否定の役割を強める“真、实在、的确”と一緒に用いることができる。例えば、“真不热情”（本当に親切ではない）、“实在不清楚”（実にはっきりしていない）、“的确不放心”（確かに安心できない）など。

続いてB組の例を見よう。

B.(28) “哎呀，你……真是！一嘴酒气！”金枝惊叫起来……〔北〕

（「あら、あなたは…まあ。口はお酒の匂いでいっぱいだ。」金枝さんはびっくりして叫んだ…）

(29) 老陈，您可真是的。人这心里多难受啊，您还有心开玩笑哪。〔北〕

（陳さん、あなたは本当にまあ。私の心はこんなに辛いのに、あなたは冗談を言うなんて。）

〔真是（的）／*真不是（的）〕

(30) 真有你的！小崔你行！〔北〕

（あなたはたいしたものだ。崔さん、あな

(1) 石毓智(2001)『肯定和否定的对称与不对称』52頁、

53頁を参照。北京語言大学出版社。

たはすごい。)

- (31) 真有你的, 把小儿过家家的把戏搬到
两军演习中了! [北]

(あなたは本当にたいしたものだ、子供の
ままごと遊びを軍隊の演習に持ってくる
なんて。)

[真有你的／*真没有你的]

例28の“真是” (“真是的”とも言える) と例
29の“真是的” いずれも強い非難、不満或いは
お詫びを表す場合に用いる。例28の“真是(的)”
に潜んでいる言外の意味は、“実に嫌だ”などで、
例29に潜んでいる言外の意味は“実に他人の気
持ちが分からない” などである。“真是(的)”
は肯定の形で否定の意味を表す。例30の“真有
你的”は実にたいしたものという意味を表す。
例31の“真有你的”は反語に用いる。“真是(的)”
と“真有你的”はいずれも熟語の性質がある。
熟語は慣用の語句の固定の組み合わせで、構造
は安定していて、勝手に切り離すことができな
い。その意味は全体性の特徴を持っていて、組
み合わせている語句の意味を単純に組み合わせ
たものではない。だから“真是(的)”と“真
有你的”はいずれも対称の否定形はない。

“实在、的确”はいずれもB組の“真”と類
似的用法はない。

§ 2 否定式はあるが肯定式がない

この部分は以下のA、B、Cの三組に分けて
討論を展開しようと思う。

- A.(32) *真行得通／真行不通 (本当に通用
しない)

- (33) *真看得懂／真看不懂 (本当に見て
わからない)

- (34) *实在拿得动／实在拿不动 (実に持
てない)

- (35) *实在看得惯／实在看不惯 (実に見
慣れない)

- (36) ? 的确看得见／的确看不见 (確かに
見えない)

- (37) ? 的确想得到／的确想不到 (確かに
思いもよらない)

A組の修飾される語句はいずれも“真、实在、
的确”が可能補語を修飾できる否定式、また、
可能補語を修飾できない或いは修飾しがたい可
能式の例である。では可能補語の肯定式と否定
式は語義の方面でまたどのような異なる特徴が
あるのか。石(2001)はすでに可能補語の“肯
定式は程度が低い量を表す。”⁽²⁾ということを
指摘しているが、それについて更に一歩進んだ
説明はしていない。

普通の認知経験によって言えば、あるまだ現
実になっていない事物に対する、現実になるか
否かの可能性の認識は、共にある理論或いは実
践の経験に基づくが、その可能性に対する認識
の仮定性は非可能性に対する認識より大きい。
非可能性の認識に対する認識の多くは実践した
結果である。例えば、

- (38) 原来他喝了多年的杜松子酒, 已喝不
惯葡萄酒了。[北]

(以前彼は長い間オランダジンを飲んでい
たので、葡萄酒はすでに飲みつけなくな
った。)

- (39) 到底是北方人, 吃不惯那南国异果。
[北]

(なんといっても北方の出身者で、南国の
特別な果物は口に合わない。)

- (40) 税收第一年, 一部分村干部想不通,
就撂了担子…… [北]

(税收の一年目、一部の村の幹部は納得で
きないので、仕事をやめた…)

- (41) 他说, 西藏他永远也去不够, 写不完。

(2) 同上1) 82頁を参照。

[北]

(彼はチベットについて、いつになっても行くのに飽きることなく、書き終わることとできないと言った。)

非可能性に対する認識は多くは実践した後の結果なので、否定式を使う頻度は肯定式より高く、否定の程度さえも肯定式の肯定の程度より高い。同時に、可能補語の否定式も肯定と否定を強める作用を持つ“真、实在、的确”によって修飾されることができる。また、可能補語の肯定式はかなり仮設性が強く、否定式はかなり現実性が強いので、その肯定式はよく反語文に用いて否定を表し、その否定式はよく反語文に用いて肯定を表す。例えば、

(42) 何是善,何是恶……到头来说得清吗?

[北]

(何が善か、何が悪か…最後には、はっきり言えるのか。)

(43) 大学生拿得动扫帚吗? [イン]

(大学生はほうきを持てるのか。)

(44) ……一个大烟鬼的话靠得住吗? [北]

(…ヘビースモーカーの話は信用できるのか。)

(45) 这么点儿东西,你怎么还拿不动呢?

(こんなわずかなものを、あなたはどのようにして持てないのか。)

(46) 你难道看不懂哇…… [イン]

(あなたはまさか見て分からないの。)

(47) 我难道还学不会珍惜吗? [イン]

(まさか、私はまだ大切にすることとを身につけていないというの。)

調査した結果、またある可能補語の肯定式も“真、实在、的确”に修飾されることが可能であることが明らかになった。例えば、

(48) 你这么做真看得起我。[イン]

(あなたはこのようにしてくれて、実に私を大切にしてくれている。)

(49) ……这样的恐怖实力对付一些小鱼小

虾,实在看得起他们了。[イン]

(…このような恐怖の力はずまらない人に対処するにあたって、実に彼らを重視するね。)

(50) ……“我们还真合得来”!!! [イン]

(…「私たちは実に気が合う」。)

(51) ……“我和吴彦祖古天乐的确合得来……” [イン]

(…「私と呉彦祖、古天楽は確かに気が合う…」)

可能補語の肯定式と否定式がいずれも“真、实在、的确”に修飾されることが可能であるという事には、一つの共通点がある。それは、これらがまた程度副詞によって修飾されることができるということで、形容詞の性質に属していて、ほかの可能補語とは異なる。例えば、

(52) ……他很看得起中国人。[イン]

(…彼は中国人をととても重視する。)

(53) 主任,感谢你非常看得起我……[イン]

(主任、私を非常に重く見てくださって、感謝いたします。)

(54) 我们很合得来。[イン]

(私達はととても気が合う。)

(55) 不敢说非常合得来,但还算合得来。[イン]

(敢えて非常に気が合うとは言えないが、まあ気が合うと言える。)

B.(56) *真像话/真不像话 (本当に話にならない)

(57) *真买帐/真不买帐 (本当に無視する)

(58) *实在怎么样/实在不怎么样 (実にあまりよくない)

(59) *实在起眼/实在不起眼 (実にぱっとしない)

(60) *的确雅观/的确不雅观 (確かに見苦しい)

(61) *的确打紧／的确不打紧（確かに大丈夫だ）

例56～61の“像话、买账”など修飾されている言葉も否定式だけが成り立ち、肯定式は成り立たない。その原因はまたどこにあるのか。“像话、买帐”この種類語句の意味上と用法上の特徴について、学者達はとっくにある程度の認識があった。例えば『現代漢語詞典』（中国社会科学院語言研究所詞典編集室）に次のように書いている。“ある言い出さない動作或いは状況に代わる”という意味の“怎么样”は“否定式に用いることしかない”。“买帐、起眼、雅观”などは“否定式に多く用いる”。

ついでに触れておくと、一部の言葉がただ否定にのみ用いられる、或いは否定に多く用いられるという現象は、中国語だけにあるものではない。日本語を例にしてみると、次の言葉には否定式だけがあり、相応の肯定式がない。

話にならない／*話になる、つまらない／*つまる、しかたない／*しかたある、申し訳ない／*申し訳ある、かたじけない／*かたじけある。

“像话、买账、怎么样”などの言葉は語義レベルがみな低いので、これらの肯定式もよく反語に用いられて、否定を表す。例えば、

(62) 谁都知道，北京是个橱窗，脏乱差像话吗？[北]

（誰でも知っている、北京はショーウィンドーで、汚くて、乱れていて、劣っていると云ったらお話しにならないじゃないか。）

(63) ……中国淘金粉丝会买帐吗？[イン]
（…中国で儲かって、ファン達は気に食わないじゃないか。）

(64) 占领华尔街又能怎么样？[イン]
（ウォール街を占領したからといって、だからどうしたっていうんだ。）

(65) 这么点儿钱能起眼吗？

（これだけのお金で見栄がはれるか。）

(66) 比基尼那样窄……能雅观吗？[イン]
（ビキニはそんなに小さくて…上品と言えるか。）

C.(67) *真是娘养的／真不是娘养的（（本当に）人間が産んだものじゃない（馬鹿野郎））

(68) *真是东西／真不是东西（（本当に）憎いやつだ）

(69) *实在是东西／实在不是东西（（実に）憎いやつだ）

(70) *实在是个玩艺儿／实在不是个玩意儿（（実に）憎いやつだ）

(71) *的确是东西／的确不是东西（（確かに）憎いやつだ）

(72) *的确是玩意儿／的确不是玩意儿（（確かに）憎いやつだ）

C組の例の非対称の事実はどうのように説明したらいいのか。例67の“真不是娘养的”は“真不是人养的”とも言う。他人を人間の産んだものではないと罵る。中国語の罵る言葉のひとつのタイプは人間を畜生と罵る。“老板娘真他妈的是狗娘养的！”（おかみさんは雌犬が産んだやつだ。）（イン）という言葉は直接的に人を畜生と罵る例である。人間は誰でももちろん人間が産んだもので、これは言うまでもないことで、わざわざ言う必要がない。更にこの言うまでもないことの肯定を強める必要はない。だから、“真是娘养的”という言葉は成立しない。

比べてみれば、副詞“真”の修飾の機能は副詞“实在”と“的确”より少し大きい。“实在不是娘养的”と“的确不是娘养的”とは一般的に言えない。

例68～72の否定式の“～不是东西”と“～不是玩意儿”というのは、いずれもいい人間ではないという意味である。人を評価する時、普通“他是个好东西／玩意儿”（彼はいいものだ）と

は誉められない。インターネットと一部の文学作品の中に、時には“女人真是好东西／玩意儿。”（女は本当にいいものだ。）という言い方が見られる。この言葉は表面上には誉める言葉のようだが、実に極めて女性を尊重しない言葉である。“女人这个东西，天生的水性杨花……”（イン）（女というものは生まれつきの浮気性である…）という言葉は少しの疑いもなく女性を侮辱する言葉である。

一般的に言えば、“东西／玩意儿”という言葉は大人に用いるとけなす傾向があるが、子供に用いると可愛がる傾向がある。例えば、

(73) “……跟我发什么脾气呀，那个老不死的东西！” [北]

（……私に何でかんしゃくを起こしたんだ、あの死にぞこないが。）

(74) “看守的孙女是一个可爱的小东西。她的卷发是那么金黄……” [北]

（世話をする孫娘は可愛いもので、彼女の巻き毛はそんな金色…）

(75) 宝宝真的是天底下最可爱的小玩意儿…… [イン]

（子供は本当に世の中で最も可愛いものだ…）

“真／实在／的确是东西 [玩意儿]。”という言葉が一般に言えない原因は“真、实在、的确”が形容詞の性質の修飾語がある名詞フレーズを修飾する必要があるからである。例えば“真是好东西”（本当にいい物だ）、“实在是可人心的东西”（実によい感じがするものだ）、“的确是个乖玩意儿”（確かにおとなしい子だ）などである。“真、实在、的确”の意味は名詞の前の修飾する成分に向かっている。

“啊呀，这场雨下的真是时候。”（ああ、この雨はいい時に降った。）この言葉の中の“真是时候”は表には、名詞の前に形容詞の性質の修飾語はないが、深層の語義構造にはやはり修飾語が必要である。“这场雨下的真是好时候”と

いう言葉はこの雨はいい時に降ったという意味である。

また、少し弁別しなければならないのは、次の二人の会話の中に、乙の“那你真是东西”（じゃ、あなたは本当に物だ）という言葉は一時的な修辭の手法で、“东西”の概念をこっそりと変えた。すなわち人間以外の物を指す。

甲：你这个人怎么这么没修养？真不是东西！

（あなたという人はどうしてこんなに教養がないのか。本当に憎いやつだ）

乙：哼！你说我不是东西，那你真是东西，行了吧？

（ふん、あなたは私のことを悪いやつだと言う、じゃあなたのことを本当に物だと言ったら、満足しただろう。）

§ 3 肯定式と否定式が対称

3.1 肯定式と否定式の対称の例は多く、“真、实在、的确”に修飾された言葉で動詞の性質に属するのは、例えば、

(76) “……真想看看他几个月前的样子。”／……我真不想看到…… [北]

（…「本当に彼の数カ月前の様子を見たい」。／…私は本当に見たくない…）

[真想……／真不想……]

(77) 真希望你们快来。／真不希望悲剧发生。

（本当にあなた達に早く来てほしい。／本当に悲劇が起こってほしくない。

[真希望……／真不希望……]

(78) “……他们实在愿意回来住……／唉，最近实在不愿意画了呀…… [イン]

（…彼らは実に帰って住みたい…／ああ、最近実に描きたくなくなった…）

[实在愿意……／实在不愿意……]

(79) “……生活实在会令他们发愁……／吕

艺生实在不会放弃演出权。[北]

(…生活は実に彼らを悩ませる…／呂芸生は絶対に演出の権利を放棄しないはずだ。)

[实在会……／实在不会……]

(80) ……两国关系的确有了很大的发展。／我们的确没有理由沾沾自喜。[北]

(…両国の関係は確かに大きな発展があった。／私達は確かに得意になる理由がない。)

[的确有……／的确没有……]

(81) ……他的确想学曹雪芹……／我们的确不想…… [北]

(…彼は確かに曹雪芹を学びたい…／私達は確かに…思わない)

[的确想……／的确不想……]

“真、实在、的确”に修飾された動詞の性質の言葉は、心理動詞、また心理動詞、助動詞などによって構成されたフレーズ及び描写性を持つ他の動詞フレーズである。副詞“真、实在”は普通の動作行為動詞は修飾できない。例えば“真吃(本当に食べる)、真看(本当に見る)”の中の“真”は形容詞で、“*实在看、*实在去”は言えない。

“真、实在、的确”に修飾された言葉で形容詞の性質に属するのは、例えば、

(82) 真聪明／真不聪明(本当に賢い／本当に賢くない)

(83) 真够意思／真不够意思(本当に立派だ／本当に感心できない)

(84) 实在好看／实在不好看(実に綺麗だ／実に綺麗ではない)

(85) 实在清楚／实在不清楚(実にはっきりしている／実にはっきりしていない)

(86) 的确走运／的确不走运(確かに運がいい／確かに運がよくない)

(87) 的确舒服／的确不舒服(確かに気持ちがいい／確かに気持ちがよくない)

では、“真、实在、的确”が連用修飾語になるフレーズの肯定式と否定式の対称になる条件は何か。量の角度から見れば、言葉は定量と非定量の特徴がある。“真、实在、的确”に修飾された“想、希望、愿意”など言葉の意味の特徴を分析してみると、分かる。これらの言葉は量の面でみなある程度の伸縮性がある、“有点儿、比较、很、十分、非常、最”などの程度副詞で量に分けることが出来る。つまりみんな非定量の特徴を持っている。

“真、实在、的确”と“不”連用修飾語になることは一つの共通点がある。それはいずれも修飾される言葉は非定量の特徴があることを要求する。例えば、以下の定量の特徴がある言葉は現実句、即ち非仮定句にいずれも副詞“真、实在、的确”と“不”に修飾されることができない。

碧绿(青緑) 漆黑(真黒である) 银白(銀色) 死硬(頑固である) 贼亮(いやにぴかぴか光る) 通常(通常) 相对(相對) 失败(失敗) 轻易(安易に) 冰冷(氷のように冷たい) 绿油油(青くてつやつやしたさま) 黑乎乎(真っ黒である) 暖洋洋(ぽかぽか暖かい) 急急忙忙(あわただしい) 漂漂亮亮(きれいである) 舒舒服服(気分がよい)

3.2 すべて非定量の特徴を持っている言葉は肯定式と否定式の対称になるだろうか。調査した結果は否である。例えば、

(88) “……我错看了你的一片真诚，我真昏呀……” [北]

(「…あなたの満腔の誠意を見間違えた。私は本当に馬鹿である…」)

[真昏／*真不昏]

(89) “你可真糊涂！” [北]

(「あなたは本当にどうかしている。」)

[真糊涂／*真不糊涂]

(90) 这个人实在油滑！

(この人は実にずるい。)

[实在油滑／*实在不油滑]

(91) 这些人实在坏！

(これらの人は実に悪い。)

[实在坏／*实在不坏]

(92) 我现在心情的确烦闷！

(私の今の気持ちは確かに悩んでいる。)

[的确烦闷／*的确不烦闷]

(93) 这个地方儿的确破旧！

(このところは確かにぼろぼろだ。)

[的确破旧／*的确不破旧]

例88～93の“真、实在、的确”に修飾された言葉はみな非定量的のものであるが、否定式がない。なぜなら“昏、糊涂、油滑”など言葉は強くけなす傾向を持っているからだ。つまり肯定式と否定式が対称になるかどうかは、言葉の褒貶の傾向も無視してはならない重要な要素である。

修飾された言葉が強くけなす傾向を持っているものは対称の否定式がない。その原因は“否定副詞＋貶義語”という形が表わすのがある程度肯定の意味だからである。一般的に言えば、人々は通常ある程度の肯定の手段を用いないで肯定を表す。使うのは、ある程度の肯定を表す時。例えば、

(94) 懒人自认为聪明, 聪明人从不懒惰。[イン]

(怠け者は自分が賢いと思って、賢い人はいつも不精ではない。)

(95) ……唐寅并不残忍……拿刀割他的脖子…… [イン]

(…唐寅は残忍ではない…ナイフで彼の首を切る…)

(96) 美艳与时尚, 诱惑不低级…… [イン]

(鮮やかさと流行、誘惑があるが下品ではない…)

不精ではないということは、とても勤勉である事を意味していない。残忍ではないというこ

とは、仁慈で手加減するという事を意味していない。下品ではないということも、とても上品であるという事を意味していない。“真、实在、的确”は連用修飾語になって、みな強い肯定あるいは否定の語気を表す。けなす傾向の語句を否定する形で表す肯定は、ある程度の特徴を持っている。よって“真／实在／的确＋不＋貶義語”という形で肯定を表す方法は選びがたい。

3.3 考察の中で、“真、实在、的确”連用修飾語になる修飾構造で、また肯定式と否定式の対称を有する物のなかで、その多くが肯定式と否定式の出る頻度に大きな違いがあるという事を発見した。問題を説明するために、例を少し多く挙げる必要がある。次の例は北京大学の言語データベースを使って検索し、出てきた結果の一部である。(括弧の数字は用例の数字を示す)

真能…… [921] (本当に…できる)／真不能…… [75] (本当に…できない)

实在能…… [6] (実に…できる)／实在不能…… [221] (実に…できない)

的确能…… [55] (確かに…できる)／的确不能…… [48] (実に…できない)

真想…… [2202] (本当に…したい)／真不想…… [83] (本当に…したくない)

实在想…… [225] (実に…したい)／实在不想…… [4] (実に…したくない)

的确想…… [55] (確かに…したい)／的确不想…… [4] (確かに…したくない)

真喜欢…… [79] (本当に…好きだ)／真不喜欢…… [13] (本当に…好きではない)

实在喜欢…… [17] (実に…好きだ)／实在不喜欢…… [13] (実に…好きではない)

的确喜欢…… [12] (確かに…好きだ)／的确不喜欢…… [5] (確かに…好きではない)

真希望…… [522] (本当に…希望する) /
真不希望…… [17] (本当に…希望しない)

实在希望…… [7] (実に…希望する) / 实在不希望…… [5] (実に…希望しない)

的确希望…… [14] (確かに…希望する) /
的确不希望…… [2] (確かに…希望しない)

真有意思 [921] (本当に面白い) / 真没[有]
意思 [10] (本当に面白くない)

实在有意思 [3] (実に面白い) / 实在没[有]
意思 [5] (実に面白くない)

的确有意思 [2] (確かに面白い) / 的确没[有]
意思 [5] (確かに面白くない)

真有趣 [75] (本当に面白い) / 真没趣 [1]
(本当に面白くない)

实在有趣 [15] (実に面白い) / 实在没趣 [0]
(実に面白くない)

的确有趣 [3] (確かに面白い) / 的确没趣
[0] (確かに面白くない)

真聪明 [98] (本当に賢い) / 真不聪明 [4]
(本当に賢くない)

实在聪明 [3] (実に賢い) / 实在不聪明 [0]
(実に賢くない)

的确聪明 [2] (確かに賢い) / 的确不聪明
[0] (確かに賢くない)

真好看 [90] (本当に綺麗だ) / 真不好看 [3]
(本当に綺麗ではない)

实在好看 [2] (実に綺麗だ) / 实在不好看
[0] (実に綺麗ではない)

的确好看 [0] (確かに綺麗だ) / 的确不好
看 [0] (確かに綺麗ではない)

真好吃 [44] (本当に美味しい) / 真不好
吃 [1] (本当に美味しくない)

实在好吃 [0] (実に美味しい) / 实在不好

吃 [0] (実に美味しくない)

的确好吃 [2] (確かに美味しい) / 的确不
好吃 [0] (確かに美味しくない)

真好听 [27] ((聞いて気持ちが) 本当にい
い) / 真不好听 [2] ((聞いて気持ちが) 本
当によくない)

实在好听 [4] ((聞いて気持ちが) 実にい
い) / 实在不好听 [0] ((聞いて気持ちが)
実によくない)

的确好听 [0] ((聞いて気持ちが) 確かに
いい) / 的确不好听 [1] ((聞いて気持ちが)
確かによくない)

真带劲 [28] (本当に面白い) / 真不带劲 [2]
(本当に面白くない)

实在带劲 [1] (実に面白い) / 实在不带劲
[0] (実に面白くない)

的确带劲 [0] (確かに面白い) / 的确不带
劲 [0] (確かに面白くない)

真方便 [25] (本当に便利だ) / 真不方便 [6]
(本当に便利ではない)

实在方便 [3] (実に便利だ) / 实在不方便
[5] (実に便利ではない)

的确方便 [9] (確かに便利だ) / 的确不方
便 [0] (確かに便利ではない)

真高兴 [270] (本当に嬉しい) / 真不高兴
[2] (本当に嬉しくない)

实在高兴 [9] (実に嬉しい) / 实在不高兴
[4] (実に嬉しくない)

的确高兴 [4] (確かに嬉しい) / 的确不高
兴 [0] (実に嬉しくない)

真好! [238] (本当にいい) / 真不好! [3]
(本当によくない)

实在好! [5] (実にいい) / 实在不好! [2]

(実によくない)

的确好！[11] (確かにいい) / 的确不好！
[6] (確かによくない)

真清楚 [9] (本当にはっきりしている) /
真不清楚 [7] (本当にはっきりしていない)

实在清楚 [1] (実にはっきりしている) /
实在不清楚 [4] (実にはっきりしていない)

的确清楚 [1] (確かにはっきりしている) /
的确不清楚 [2] (確かにはっきりしていない)

真公平 [2] (本当に公平だ) / 真不公平 [10]
(本当に公平ではない)

实在公平 [0] (実に公平だ) / 实在不公平
[4] (実に公平ではない)

的确公平 [0] (確かに公平だ) / 的确不公
平 [1] (確かに公平ではない)

真容易 [11] (本当に易しい) / 真不容易
[236] (本当に易しくない)

实在容易 [2] (実に易しい) / 实在不容易
[46] (実に易しくない)

的确容易 [6] (確かに易しい) / 的确不容
易 [20] (確かに易しくない)

真贵 [4] (本当に(値段が)高い) / 真不
贵 [4] (本当に(値段が)高くない)

实在贵 [1] (実に(値段が)高い) / 实在
不贵 [1] (実に(値段が)高くない)

的确贵 [0] (確かに((値段が)高い) /
的确不贵 [1] (確かに(値段が)高くない)

真便宜 [11] (本当に安い) / 真不便宜 [2]
(本当に安くない)

实在便宜 [2] (実に安い) / 实在不便宜 [0]
(実に安くない)

的确便宜 [0] (確かに安い) / 的确不便宜
[0] (確かに安くない)

真高 [28] (本当に高い) / 真不高 [1] (本
当に高くない)

实在高 [5] (実に高い) / 实在不高 [3] (実
に高くない)

的确高 [8] (確かに高い) / 的确不高 [1]
(確かに高くない)

真低 [2] (本当に低い) / 真不低 [2] (本
当に低くない)

实在低 [2] (実に低い) / 实在不低 [0] (実
に低くない)

的确低 [2] (確かに低い) / 的确不低 [0]
(確かに低くない)

真多 [205] (本当に多い) / 真不多 [19] (本
当に多くない)

实在多 [19] (実に多い) / 实在不多 [56]
(実に多くない)

的确多 [8] (確かに多い) / 的确不多 [14]
(確かに多くない)

真少 [25] (本当に少ない) / 真不少 [206]
(本当に少なくない)

实在少 [41] (実に少ない) / 实在不少 [39]
(実に少なくない)

的确少 [6] (確かに少ない) / 的确不少 [29]
(確かに少なくない)

真笨 [66] (本当に不器用である) / 真不
笨 [1] (本当に不器用ではない)

实在笨 [0] (実に不器用である) / 实在不
笨 [0] (実に不器用ではない)

的确笨 [0] (確かに不器用である) / 的确
不笨 [0] (確かに不器用ではない)

真坏 [71] (本当に悪い) / 真不坏 [22] (本
当に悪くない)

实在坏 [0] (実に悪い) / 实在不坏 [0] (実に悪くない)

的确坏 [0] (確かに悪い) / 的确不坏 [0] (確かに悪くない)

以上の“真、实在、的确”の連用修飾語になる修飾構造の肯定式と否定式の用例の頻度を見ると、全体的に修飾された言葉がほめ言葉、へん義語、或いは、ほめる意味とけなす意味を含まない中性的な言葉であっても、肯定式の出る頻度が否定式より高いことは明らかである。一部の言葉は、例えば“公平、容易”は否定式に用いられることが多い。“多”は“真”に修飾される時は肯定式に用いられることが多く、“实在、的确”に修飾される時は否定式に用いられることが多い。“少”は“真、的确”に修飾される時は、その否定式は肯定式より明らかに多く、“实在”に修飾される時は、その肯定式と否定式の頻度は大体同じくらいである。“真”を使う頻度は“实在、的确”よりはるかに高い。“实在”と“的确”を比べてみれば“实在”を使う頻度は“的确”より少し高い。

“真”の用例があり、“实在”と“的确”の用例がない、その原因の一つは言語データベースに収めてあるデータの範囲と数の制約を受けているからで、すべて“实在”と“的确”を使えないということの意味していない。“笨”と“地道”を例にすると、

(97) 祥林嫂你实在笨。[イン]

(祥林嫂、お前は実に愚かだ。)

(98) 明明在装天真, 你又实在不笨。[イン]

(明らかに無邪気なふりをしているが、あなたはまた実は愚かではない。)

(99) 金庸笔下的大侠郭靖的确笨得可以…
… [イン]

(金庸書いた侠客の郭靖は確かにたいへん愚かだ…)

(100) 小孩的确不笨。[イン]

(子供は確かに愚かではない。)

(101) ……实在地道 [イン]

(実に本物である。)

(102) 肯德基同城不同价, 实在不地道。[イン]

(ケンタッキーは同じ町にあるけど、値段は同じではない、実によくない。)

(103) 那家餐厅的四川菜的确地道。

(そのレストランの四川料理は確かに本場のものである。)

(104) 这家餐厅的葡菜的确不地道。[イン]

(このレストランのオランダ料理は確かによくない。)

肯定式と否定式の出る頻度の違いも一つの非対称である。この非対称になる原因はとても複雑である。言葉自身の意味の影響とも言えるし、人は一般的にプラスの角度から言葉を使う影響があるからとも言える。全体的に見れば、肯定式の出る比率は明らかに否定式より高く、これは人が一般的にプラスの角度から言葉を使うという事の結果である。修飾されたへん義語の修飾構造の肯定式も否定式より多く、これは人が一般的にへん義語を否定して肯定を表す手法を使わないという事の結果である。

“公平”と“容易”が多く否定式に使われ、肯定式に使われることが少ないという事も、人々の社会心理に関係している。人々は普通、世の中の全てのことが、当然公平であるべきであり、公平であることが社会のあるべき姿だと考えているので、公平である状態をあまり気にかけない。しかし、不公平であることは人々に不満或いは強い憤慨を引き起こしうる。だから、“公平”の否定式が出る頻度は肯定式より高い。易しいという事もあまり人々の注意を引き起こさない。難しい事は人の心理に圧力をもたらす。だから人々は非常に困難な実践を経験した後、どうしても「本当に簡単ではない」という感慨が起こるので、“容易”の否定式の出る頻度は自然と肯定式が出る頻度より高くなる。

§ 4 肯定式と否定式、意味上と形式上において、対称もあり、非対称もある

“真、实在、的确”が連用修飾語になる一部の修飾構造で、その肯定式と否定式が形式上と意味上において対称の面もあり、非対称の面もあるという例は少ない。中心語が“有劲”である修飾構造を例にすると、

(105) 爸，你真有劲。[北]（お父さん、本当に力が強い。）／……我是真没劲了。（…私は本当に力がなくなった。）[イン]

[真有劲／真没劲]

(106) ……实在有劲使不完找太森切磋一下…… [イン]（…実に力が使いきれないほどあるマイク・タイソンと切磋琢磨してみよう…）／我实在没劲了，大夫。（私は実に力がなくなった。先生。）[北]

[实在有劲／实在没劲]

(107) 他选中的牲口也的确有劲……[北]（彼に選ばれた役畜も確かに力が強い…／他的的确没劲…（彼は確かに力が弱い。）[北]

[的确有劲／的确没劲]

例105、106、107の“有劲”と“没劲”の中の“劲”はいずれも力の意味で、肯定式と否定式は対称である。

“劲”はまた面白みの意味がある、例えば、

(108) 你老人家活得真没劲儿…… [北]

（ご老人、あなたの生活は本当に面白くない。）

(109) 大半夜呆着实在没劲看个电影。[イン]

（夜中に暇で実に面白くなくて、映画を見る。）

(110) 没有赵本山的春晚的确没劲啊！ [イン]

（趙本山がいない春節聯歡晩会は確かに面白くなかった。）

“真、实在、的确”は面白みの意味の“劲”を修飾するとき、肯定式はなく、ただ否定式があるだけである。つまり例105、106、107の肯定式は例108、109、110の対称の形式ではない。これによってわかるように、“真、实在、的确”が連用修飾語になる修飾構造は、その肯定式と否定式が形式上と意味上において、対称も面もあり、非対称の面もあると言うことは、修飾される言葉がいくつかの意味の項目を持ち、その中のある意味の項目がただ否定に用いられる事が多い、或いは否定にしか用いることができない、という事による。言葉の中のある意味は、ただ否定にしか用いられない、或いは否定に多く用いられるものは、その意味の本質も語義レベルが低い。

§ 5 終わりに

本論は先人が中国語の言語単位の対立と非対称性に関して研究した成果の基礎の上に、副詞“真、实在、的确”が状況語になる修飾構造の肯定式と否定式の対称と非対称の現象に対して研究した。その結果次のようなことを明らかにした。副詞“真、实在、的确”が状況語になる修飾構造が肯定式と否定式の対称と非対称の現象に影響する要素は、言語の意味と文法の面があるだけでなく、語用の面もある。“真、实在、的确”この三つの副詞の意味上と文法上の相違は他の言葉とを組み合わせることを制約している。逆にして見れば、他の言葉の語義レベル、量の特徴、褒貶のニュアンス、熟語の性質及び人々がプラス面で言葉を用いることなどは、いずれも副詞“真、实在、的确”との組み合わせを制約している要素である。

主な参考文献

文 鍊 (1990)「語言单位的対立和不对称現象」、『語言教学与研究』第4期。

段業輝(1995)「語氣副詞的分布及語用功能」、《漢語學習》第4期。

陸儉明 馬 真(1999)《現代漢語虛詞散論》、語文出版社。

張 斌 張誼生(2000)《現代漢語虛詞》、華東師範大學出版社。

石毓智(2001)《肯定和否定的對稱與不對稱》、北京語言大學出版社。

潘家煊(2001)「語言的“主觀性”和“主觀化”」、

《外語教學與研究》第4期。

鄒韶華(2001)《語用頻率效用研究》、商務印書館。

潘家煊(2004)《不對稱和標記論》、江西教育出版社。

顏紅菊(2010)副詞“真”的主觀性分析、《湖南科技大學學報》(社會科學版)第13卷第1期。